

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-78	小学校	外国語	英語	第5学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	英語 508	Blue Sky elementary 5		

1 編修の基本方針

今後、ますます多様化していく社会の中で、様々な人々と協働しながら持続可能な社会の担い手となる児童に必要な資質・能力を培う観点から、教師・児童・保護者の視点に立って、以下の3点を基本方針として位置づけました。



① 教師が教えやすく、児童とともに学べる教科書

- (1)各UnitはPart 1～3の3つのPartで構成しています。各Partには取り扱うべき語彙や表現などの学習内容を示し、指導内容が一目でわかるようにしました。音声教材も併せて活用することで、児童とともに授業を進めやすくしています。
- (2)Part末にはActivityを設け、Part 2, Part 3を中心に、ペアワークやグループワークといった主体的・対話的な学習が進められる活動や発表活動を行い、Part 3では、Unitのまとめとなるようなコミュニケーション活動を行えるようにしています。

② 児童が興味をもって、みんなといっしょに学べる教科書

- (1)各Unitの扉には全体のめあてを、各PartにはそのPartのめあてを明示しました。このことにより、児童にも学習目標がはっきりわかり、何ができるようになるかを意識しながら、主体的に学習を進めることができます。
- (2)Part末のActivityでは、ペアワークやグループワークによる主体的・対話的な学習を通して、コミュニケーション力が養えるよう配慮しています。

③ 保護者が子どもの成長を感じながら、子どもとともに学べる教科書

- (1)本文には書き込み式を多く取り入れ、学習の軌跡が見えるようにしています。このことにより、子どもの成長の過程を実感できます。
- (2)適宜QRコード・URLを掲載して、家庭でも手軽に音声教材などを使った学習ができるようにしていますので、子どもと保護者がいっしょに学ぶことができます。

1 教科書の構成

- 各学年とも、Pre Unit, Unit, REVIEW で構成しています。
- 各学期のUnitの配分は以下のように設定しています。

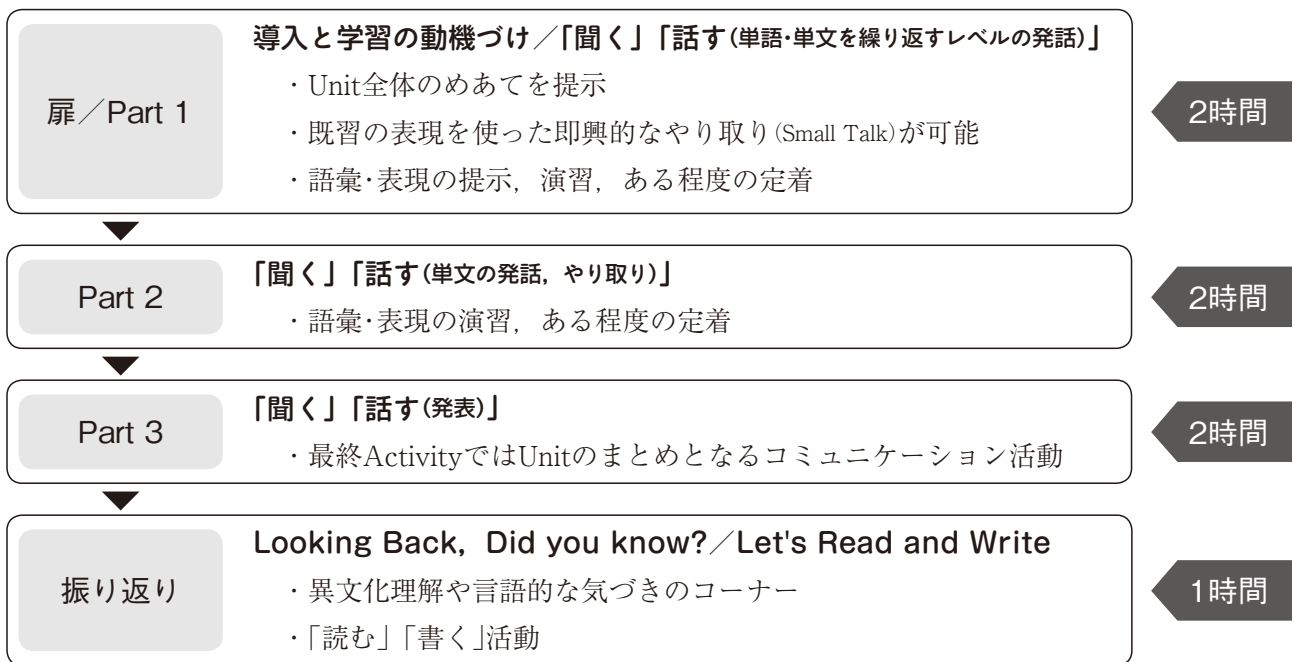
()内は配当時間数

1学期 (25)	Pre Unit (2)	Unit 1 (7)	Unit 2 (7)	Unit 3 (7)	REVIEW ① (2)
2学期 (23)	Unit 4 (7)	Unit 5 (7)	Unit 6 (7)	REVIEW ② (2)	
3学期 (16)	Unit 7 (7)	Unit 8 (7)	REVIEW ③ (2)		

(※2学期制では、Unit 4までが前期、Unit 5以降が後期となります。)

- 各学期の最後にREVIEWを設定し、それまでのUnitで学習した表現の復習と活用ができるように配慮しています。
- 各学期の配当時間には余裕をもたせていますので、学級や児童の実態に応じて柔軟に扱うことができます。
- 巻末にCan-Do Listを掲載して、児童が目標をもって学習したり、学習を振り返ったりできるようにしています。

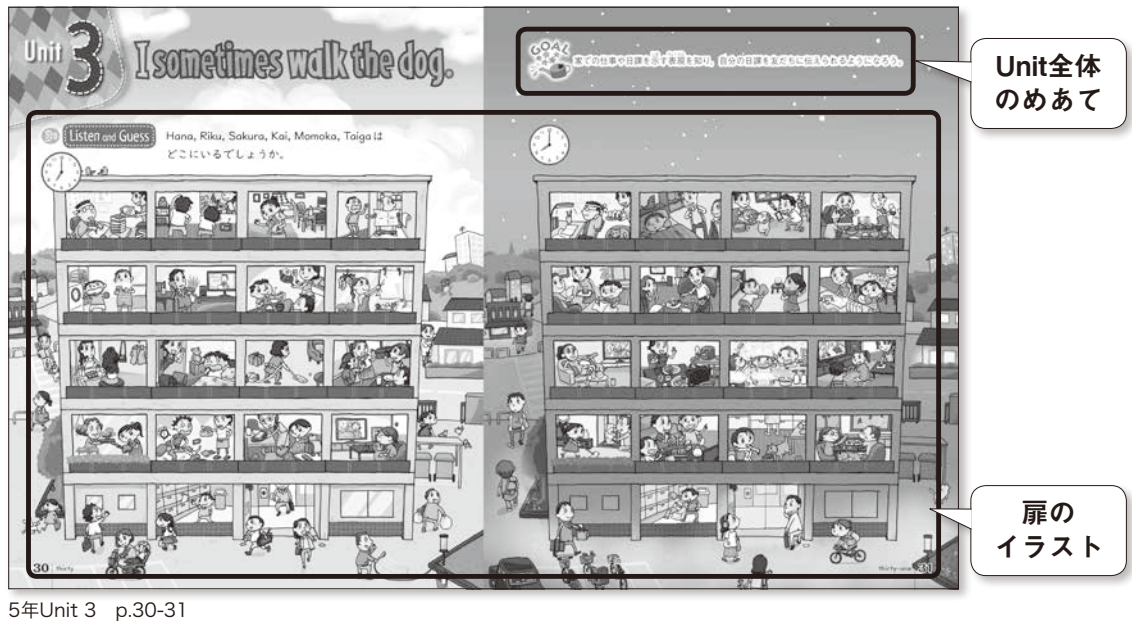
2 各Unitの構成



- 各Unitの配当時間数はいずれも7時間としています (Pre Unitのみ2時間配当)。
- 各Unitは、授業の展開を考慮して、扉 → Part 1～3 → 振り返り で構成しています。
- 各Partは見開き2時間という余裕をもたせた配当時間になっていますので、状況に応じて、繰り返し学習やデジタル教材などを使った追加の活動を行うこともできます。
- 各Unit末の Looking Back では、Unitで学習した内容を振り返り、知識・技能の定着を図ることができます。
- 各Unit末には、児童の興味を引きつけ、主体的な調べ学習を促すコラム (Did you know?) や「読む」「書く」練習の場 (Let's Read and Write) を設定しています。

3 紙面の構成・特長

○授業計画の立てやすさを考慮して、扉・Partは**見開き**で構成しています。



5年Unit 3 p.30-31

○Unit初めの扉には、Unit全体の**めあて**を明記し、**学習への興味づけ**を行えるようにしています。

○扉のイラストは、既習の表現を使った**即興的なやり取り**(Small Talk)による**コミュニケーション活動**ができるようにしています。



5年Unit 3 p.32-33

○Partごとに**めあて**を明記し、児童が**学びの見通し**をもてるように配慮しました。

○めあての横に**バロメーター**(できたかな?)を配置し、児童が自分で達成度を確認できるようにしました。

○そのPartで学ぶ**語彙や表現**を紙面に**提示**し、学習内容を明確にしました。

○「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の**4技能5領域を示すマーク**(👂👁️🗣️📖✍️)を問題の横に表示しました。

Part末のActivity

Part 3 自分の日課を伝えよう。

Listen and Do 外国の子どもたちが、学校に行く日の日課を聞いて、時こくを書いて、○○をぬりましょう。

1. Ryan 6:00 12:00 6:00

2. 6:00 12:00 6:00

Chant リズムに合わせて言ってみよう。

After school I eat lunch.
Then I play with my friends.

Activity 1. 学校に行く日の日課を表して、友だちや先生にしようかいしましょう。

2. 友だちの発表を聞いて、放課後の過ごし方を書きましょう。

名前	放課後にすること①	放課後にすること②	放課後にすること③

モジュールマーク



5年Unit 3 p.36-37

○短時間で終わる、繰り返し学習に適している題材にはモジュールマークを付け、短時間学習でも扱えるようにしました。

○Part末に設けたActivityでは、ペアワークやグループワークによる主体的・対話的な学習が進められます。特に、最終となるPart 3のActivityでは、Unitのまとめのコミュニケーション活動を設定しています。

Looking Back

Let's Read and Write

Looking Back Unit 3の学習をふり返りましょう。

- 1 起きる時こくやねる時こくを言えるかな。
- 2 ふだん自分が家でどんな仕事をどのくらいしているか言えるかな。
- 3 放課後にすることを伝えられるかな。
- 4 Unit 3の学習中に「言いたいけど言えなかった」ことや、「もっと知りたい」と思ったことを書いてみよう。
- 5 Unit 3で学習した英語をどんな場面で使いたいか書いてみよう。

Did you know? 小学校での昼食は国や地域によってさまざまです。

Japan the USA France

日本の昼食：日本の給食のように、同じものをいっしょに教室で食べることは、外国ではめずらしいです。

アメリカの昼食：お弁当を持ってきたり、カフェテリアで食べたりします。

フランスの昼食：長い昼休みの間に家に帰って食べたり、カフェテリアで食べたりします。

Let's Read and Write 3

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

アルファベットを聞いて、書いてみましょう。

F f Friday five

H h hand home

K k kind king

L l lemon lunch

T t table time

5年Unit 3 p.38-39

Did you know?

○Looking Back では、チェックマークを書いて、学習事項の振り返りと確認・評価をします。学びに向かう力をはかる問いも設定しています。

○Did you know? では、異文化への理解などを促し、深い学びへの興味づけを行います。

○Let's Read and Write では、アルファベットなどを読んだり書いたりする練習を行い、定着を図ります。

2

対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	▶英語の学習を通して幅広い知識と教養を身に付け、他人の特徴や話の内容を理解して配慮したり、道案内をしたりすることなどを通して、思いやりの心が芽生え、豊かな情操と道徳心を育てるようにしました。	p.40-59, 73, 94-95など
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	▶レストランの店員の役割を演じることを通して、自主及び自律の精神を養うとともに、職業と生活の関連を重視し、労働を重んずる態度を養えるようにしました。	p.89, 91など
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	▶家の仕事を分担することを通して、正義と責任、男女の平等を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました。	p.34-35など
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	▶いろいろな動物が近くにいることを知る絵本題材を通して、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。	p.96-99など
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	▶干支や月ごとの行事に触れ、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるようにしました。	p.10-13
	▶世界の国の祭りや料理を知ること、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。	p.18, 84-85など

3

上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

●特別支援教育・ユニバーサルデザインへの対応

- 特別支援教育の専門家の監修のもと、文節や意味による改行をするなど、すべての児童が支障なく学習できるよう配慮しました。また、誰もが識字しやすいUD(ユニバーサルデザイン)書体を採用しました。
- 教科書全体を温かみのあるやさしい色使いでシンプルなデザインにし、誰にでも必要な情報が伝わるよう心がけました。これにより、メディア・ユニバーサル・デザイン協会(MUD)による認証マークを取得しました。



編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-78	小学校	外国語	英語	第5学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	英語 508	Blue Sky elementary 5		

1 編修上特に意を用いた点や特色

① コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を身につける

○様々な言語活動を通して、英語でコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を身につけられるよう、活動の種類を示す看板を問題の頭に付け、活動の意図をわかりやすくしました。

Listen and Guess 絵や写真を見ながら聞いて、考えよう

Listen and Do よく聞いて、やってみよう

Jingle リズムに乗って、言ってみよう

Listen and Play よく聞いて、指さしてみよう

Chant リズムに合わせて、言ってみよう











Look and Say よく見て、言ってみよう

Listen and Say よく聞いて、言ってみよう

Think and Say よく考えて、言ってみよう

② 児童が主体的に関わりながら学びを進める

○児童が臨場感をもって主体的に学習が進められるように、先生・友だちのキャラクターを設定しました。


花 (Hana)  日本人	陸 (Riku)  日本人	桜 (Sakura)  日本人	海 (Kai)  日本人	桃花 (Momoka)  日本人
大河 (Taiga)  日本人	エマ (Emma)  イギリス人	ジミー (Jimmy)  シンガポール人	リチャード・スミス先生 (Mr. Richard Smith)  アメリカ人	あお (Ao) ぴよ (Piyo)  インコ

③ 既習の用語・表現に何度も接して、定着を図る

○学習した内容の定着を図るため、後の学習でもいろいろな場面で接することができるように配慮しています。

◆教科書の観点別特色

観点	留意点	該当箇所
教育基本法・学習指導要領の遵守	①教育基本法及び学習指導要領で示された目標を達成するため、次の基本方針のもと、編修しました。 ・教師が教えやすく、児童とともに学べる ・児童が興味をもって、みんなと一緒に学べる ・保護者が子どもの成長を感じながら、子どもとともに学べる	全般
資質・能力の育成	①【知識・技能】紙面に単語や表現を明示して、身につける学習内容がわかるようにしています。 ②【知識・技能】短時間でできる繰り返し学習に適した内容を適宜配置し、基本的な知識・技能の定着が図れるようにしています。 ③【思考力・判断力・表現力】各学期末の REVIEW には、既習事項を使って場面や状況に応じて考え、判断し、表現する活動を設定しています。 ④【学びに向かう力】Unit末の Did you know? では、異文化理解や他教科に関連する題材などを取り上げて、児童の学習意欲を深め、より深い学びへと導けるようにしています。	①p.12「Listen and Play」 p.13「Chant」など ②p.7「Chant」 p.12「Jingle」など ③p.40-41, 72-73, 94-95 ④p.28, 50など
主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)	①ペアワークやグループワークなどによる主体的・対話的な学習が進められる教材を多く設定しています。また、その際に必要な語彙をWard Listから選択できるように参照ページを示しました。 ②Unit末の Did you know? では、異文化や他教科に関連する題材などを取り上げて、主体的・対話的で深い学びができるよう配慮しました。 ③各学期末の REVIEW では、場面や状況を考え、判断する問題に、思考力マーク(思)を付け、深い学びへとつなぎます。	①p.47, 49, 69 「Activity」など ②p.121-136 ③p.40-41, 73, 94-95
学びの見直し・振り返り	①児童が見直しをもって学習が進められるように、Unitの扉にはUnit全体のめあて(GOAL)、各PartにはPartごとのめあてを明示しています。 ②児童が自分で達成度を確認しながら学習が進められるように、各Partにバロメーター(できたかな?)を配置しています。 ③Unitの目標を振り返ることができるように、各Unitの最後に Looking Back のコーナーを設置しています。 ④5, 6年生を通した目標をもって学習したり、振り返ったりできるように、巻末に Can-Do List を掲載しています。	①p.11, 12など ②p.12など ③p.18など ④p.120
内容・配列・分量	①児童の身近な場面から導入を図るなど、抵抗なく英語に接することができるよう配慮しました。 ②外国語の指導に不慣れな教師でも時間内に授業ができるような題材・分量を設定しました。 ③「Let's try!」「We can!」を参考にしてUnitを構成し、前学年からの学習がスムーズにつながるよう配列を考慮しました。	①p.20-21, 30-31など ②③全般
コミュニケーション活動	①児童の身近な題材を使ったコミュニケーション活動を通じて英語の学習ができるように配慮しました。	①p.23, 81「Activity」など
4技能5領域への対応	①「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の4技能5領域の内容を各Unit内で適切に取り上げ、問題の横に、該当する4技能5領域をマークで表示して、身に付ける知識・技能を明確にしました。	①p.66-67, 71など
評価(Can-Do)への対応	①Unit末の Looking Back では、学習事項を確認し、自己評価することができます。特に、学びに向かう力をはかる問いも設定しています。 ②巻末に Can-Do List を掲載して、児童自身が学習を見通したり、振り返ったりできるようにしています。	①p.18など ②p.120

観点	留意点	該当箇所
他教科との関連	<p>①(国語)日本語との語順の違いやローマ字、カタカナで馴染みの深い言葉と英語での表現について扱いました。また、物語も取り上げました。</p> <p>②(社会)世界の国の行事や習慣などを取り上げました。</p> <p>③(算数)5ずつ数えるときに使う記号や時刻を表現する題材や金額の表現、グラフなどを取り上げました。</p> <p>④(理科)動物の名前や特徴に関する題材や不思議な生物、植物などを取り上げました。</p> <p>⑤(音楽)英語の歌を取り上げたり、リズムに合わせて発話したりする活動を取り上げました。</p> <p>⑥(図工)絵で表現する題材を取り上げました。</p> <p>⑦(家庭)ランチのメニューを考えて発表する活動を取り上げました。</p> <p>⑧(道徳)他国の文化・習慣について理解し、日本人としての自覚をもてる題材を取り上げました。</p> <p>⑨(総合)他国について調べ、発表するなどの活動を取り上げました。</p>	<p>①p.8-9, 50, 92, 96-99</p> <p>②p.18, 38, 62-70, 118など</p> <p>③p.23, 28, 32-33, 90-91など</p> <p>④p.46, 107, 108, 112, 114</p> <p>⑤p.12-13, 119など</p> <p>⑥p.49, 59</p> <p>⑦p.91</p> <p>⑧p.38, 70など</p> <p>⑨p.67</p>
中学年との連携	<p>①巻頭にPre Unitを設け、中学年からの橋渡しとなる内容を取り上げました。</p> <p>②『Let's try!』で学習した語彙・表現も取り上げ、繰り返し学習により定着が図れるよう配慮しました。</p> <p>③各Unitの扉のページでは、既習事項を使ってやり取りができる挿絵や写真を掲載するなど中学年との連携を図りました。</p> <p>④ローマ字は国語で学習した訓令式から英語で中心となるへボン式へとスムーズに移行できるように配慮しました。</p> <p>⑤中学年で学習した単語を振り返れるように、巻末にWord Listを掲載しました。</p>	<p>①p.6-9</p> <p>②全般</p> <p>③p.42-43など</p> <p>④p.8-9</p> <p>⑤p.100-118</p>
小中の連携	<p>①第5学年から第6学年にかけて、徐々に単語や文を書く機会を増やし、中学校での学習へスムーズにつながるよう配慮しました。</p> <p>②第6学年の最後に中学校生活を題材に取り上げ、児童が小学校との違いについて意識できるようにしました。</p>	<p>①5年p.19, 49, 64, 87 / 6年p.13, 91など</p> <p>②6年p.84-92</p>
カリキュラム・マネジメント、短時間学習への対応	<p>①短時間で終わる・繰り返し学習する・途中で終わっても差しつかえない内容にはモジュールマーク()を付け、状況に応じて柔軟に扱えるよう配慮しました。</p> <p>②各学期末に設定したREVIEWは、学級や児童の実態に応じて柔軟に扱うことができます。</p> <p>③各学期に2時間ずつ予備時間を設け、学級の実態に応じた指導ができるよう配慮しています。</p>	<p>①p.26「Jingle」「Chant」など</p> <p>②p.40-41, 72-73, 94-95</p>
教師支援	<p>①Unitの各Partに見開きで2時間という余裕をもたせた時間配当をするなど、外国語の指導に不慣れな教師でも着実に授業が進められるよう配慮しました。</p> <p>②音声教材などICTを使った教材を充実させ、授業の中で適切に生かせるよう配慮しました。</p>	全般
特別支援教育・ユニバーサルデザインへの対応	<p>①本文にはUDフォントを採用して視認性・可読性を高めました。</p> <p>②誰もが読みやすいように文節で改行をしたり、学習のめあてを明記したりするなど、インクルーシブ教育に配慮しています。</p> <p>③色覚特性や障害をもつ児童などにもわかりやすいよう、判別しにくい配色を避けたり、シンプルなイラストを扱ったりするなどの配慮をしました。 メディア・ユニバーサル・デザイン協会(MUD)による検証を行いました</p> <p>④デジタル教科書や拡大教科書を用意し、児童の様々な学習形態に対応できるよう配慮しました。</p>	全般
人権、福祉、国際理解・異文化理解、ジェンダーへの配慮	<p>①外国の様々な話題を取り上げて、自分の国との違いなどに気づかせるなど、国際理解・異文化理解を深められるようにしています。</p> <p>②車椅子に乗った人など社会的弱者を気遣う心が育つように配慮しています。</p> <p>③教科書には多くの人種の人々を登場させています。</p> <p>④女性は赤色・男性は青色といった固定観念で性の区別をしない、男女の社会的役割を平等にするなど、ジェンダーへの配慮をしています。</p>	<p>①p.18, 28, 38など</p> <p>②p.42-43など</p> <p>③p.1, 26, 36, 40など</p> <p>④p.37, 42-43など</p>

観点	留意点	該当箇所
ICTの活用	<p>①音声や動画などデジタル教材を使った繰り返し学習が有効な箇所には、QRコードを明示しています。また、QRコード対応機器以外でもデジタル教材を活用できるように「教科書構成・使い方」のページにURLを掲載しています。</p> <p>②音声を用いた教材を随所に設定し、臨場感をもって対話的な学習が進められるようにしています。</p>	<p>①p.3, 19, 22など</p> <p>②p.6「Listen and Do」など</p>
家庭学習・自学自習への対応	<p>①各Unitの扉には、そのUnit全体のめあてを提示し、学習への興味づけを行えるようにしています。</p> <p>②各Partでは、そのPartで学ぶ語彙や表現を提示し、児童自らが見通しを立てたり、振り返ったりできるようにしています。</p> <p>③紙面に適宜QRコード・URLを掲載して、家庭でも音声を使って学習ができるよう配慮しています。</p>	<p>①p.21「GOAL」など</p> <p>②p.22「Listen and Play」 「Chant」など</p> <p>③p.22「Jingle」など</p>
基礎・基本の定着	<p>①教科書紙面に語彙や表現を明示し、知識・技能の定着を図れるようにしています。</p> <p>②Unit末の Looking Back で学習事項を振り返り、繰り返し学習することを通して、基礎・基本の定着を図ることができます。</p> <p>③各学期末の REVIEW では、4技能5領域を統合する活動を設定し、基礎・基本の定着を図れるようにしています。</p> <p>④児童が巻末の Word List など多くの語彙に触れることで、基礎・基本の定着を図れるようにしています。</p> <p>⑤巻末に絵カードを掲載し、児童の英語に触れる機会を増やすことで基礎・基本の定着を図ります。</p>	<p>①p.12「Listen and Play」 p.13「Chant」など</p> <p>②p.18など</p> <p>③p.40-41など</p> <p>④p.100-118</p> <p>⑤p.121-136</p>
今日的な課題への対応	<p>①福祉、オリンピック・パラリンピックなどの今日的な課題についても多様な題材を取り上げています。</p>	<p>①(福祉)p.94 (オリ・パラ)p.60</p>
家庭や地域との連携	<p>①家の仕事の分担や家族の紹介などを取り上げ、児童が家庭における役割について意識できるようにしています。</p> <p>②町の道案内などを取り上げ、児童が自分の住む地域についても意識できるようにしています。</p>	<p>①p.34-35, 54-55</p> <p>②p.78-82</p>
オールイングリッシュへの配慮	<p>①Classroom English を使って授業を進めやすい題材を扱いました。</p> <p>②各Unitの扉には、即興的なやり取り(Small Talk)を促せる題材を設定しました。</p> <p>③QRコードやデジタル教科書などを使って、ネイティブによる英語の音声での指導ができるように配慮しています。</p> <p>④ALTにもわかりやすいように、教師用指導書には指示文の英訳などを掲載しています。</p>	<p>全般</p>
文字・印刷・用紙・製本	<p>①すべての人が識別しやすいUDフォントを使用しています。</p> <p>②行間にゆとりをもたせ、文章が読みやすくなるように配慮しています。</p> <p>③大きな判型(AB判)を採用してイラストや写真を効果的に掲載することで、学習効果が上がるよう配慮しています。</p> <p>④針金を使わない堅牢な「あじろ綴じ」製本を採用して、ページを大きく開けるよう配慮しています。</p> <p>⑤書きやすく消ししやすい軽量で丈夫な用紙を採用しました。</p> <p>⑥アレルギーや環境に配慮し、植物油インキ・再生紙を使用しています。</p>	<p>全般</p>

2

対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数	3学 期制	2学 期制
Pre Unit	I'm Hana. H-a-n-a. 自己 ^{じこ} しょうかい・ローマ字	(1)アイウエ, (2)ア, (3)①アイウエオ, ②アイ	p.6-9	2	1学 期(25時間)	前期 (32時間)
Unit 1	My birthday is May 10th. 行事・たんじょう日	(1)アイウエ, (2)ア, (3)①アイウエオ, ②アイ	p.10-19	7		
Unit 2	I study math on Monday. 学校生活・教科	(1)アイウエ, (2)ア, (3)①アイウエオ, ②アイ	p.20-29	7		
Unit 3	I sometimes walk the dog. 1日の生活	(1)アイウエ, (2)ア, (3)①アイウエオ, ②アイ	p.30-39	7		
REVIEW ①		(1)アイウエ, (2)アイ, (3)①アイエ, ②アイ	p.40-41	2		
Unit 4	She can sing well. できること	(1)アイウエ, (2)アイ, (3)①アイウエオ, ②アイ	p.42-51	7	2学 期(23時間)	後期 (32時間)
Unit 5	This is my sister. 身近な人のしょうかい	(1)アイウエ, (2)ア, (3)①アイウエオ, ②アイ	p.52-61	7		
Unit 6	I want to go to France. 行きたい国	(1)アイウエ, (2)ア, (3)①アイウエオ, ②アイ	p.62-71	7		
REVIEW ②		(1)アイウエ, (2)アイ, (3)①アイエ, ②アイ	p.72-73	2		
Unit 7	Where's the park. 位置・場所	(1)アイウエ, (2)ア, (3)①アイウエオ, ②アイ	p.74-83	7	3学 期(16時間)	
Unit 8	I'd like pizza. 料理 ^{きんがく} ・金額	(1)アイウエ, (2)アイ, (3)①アイウエオ, ②アイ	p.84-93	7		
REVIEW ③		(1)アイウエ, (2)アイ, (3)①アイエ, ②アイ	p.94-95	2		
Story	Who's Behind Me? うしろにいるのだあれ	(1)アイウエ, (2)イ, (3)①アイ	p.96-99	—		

年間配当時数

64時間(予備時間6時間)